

令和 5 年 5 月 12 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K02047

研究課題名（和文）近現代都市における貧困の重層化プロセスと社会政策に関する歴史社会学的研究

研究課題名（英文）The Study of Accumulation and stratified of poverty factors in urban area and Social Policies from Historical Perspective

研究代表者

武田 尚子（Takeda, Naoko）

早稲田大学・人間科学学術院・教授

研究者番号：30339527

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：都市の特定地域に貧困重層化が生じるプロセスについて、イギリスの都市ヨークに焦点をあて、19世紀前半にスラム地域が形成された背景、20世紀のスラム地域改善のプロセスや意義について都市社会学、歴史社会学的視点から分析した。

都市自治体が近世的市場を近代的市場に再編する過程で、諸矛盾が蓄積する地域が形成された。スラム改善は自治体の政策として進捗した。都市の基本的かつ根幹的機能である「市場交換、資本の合理的蓄積」が「諸矛盾の蓄積」要因であり、近代の「市場再編プロセス」が貧困地域を顕在化させ、スラム改善には「都市の資本蓄積過程」が「貧困発生の要因」という社会的認識・社会的合意の形成を必要とした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は2018年から利用可能になったヨーク市公文書館所蔵「ヨーク市衛生局調査」データに基づく分析である。ハンゲイト、ウォルムゲイト両地区における衛生調査の詳細、ヨーク市の衛生対策が具体的に把握できるデータ資料である。

本研究は両地区に関する新規公開データに基づき、スラム改善のプロセス、ヨーク市の都市政策におけるスラム改善の意義を明らかにしたもので、1899-1901年にB.S. ロウントリーが実施したヨーク貧困調査の意義を再評価し、世界的に著名なロウントリーの貧困概念創出の背景を解明した点で国際的・学術的意義を有する。

研究成果の概要（英文）：Focusing on the city of York in the Middle East of England, This study analyzed the background of the formation of slum areas in the first half of the 19th century, and the process and significance of improving slum areas in the 20th century from a point of view of urban sociology and history.

In the process of formation of the modern market by city governments, various contradictions accumulated were formed in the specific areas. Improvement of slums progressed as a policy of local governments.

Market and accumulation of capital are the basic and essential functions of accumulation of contradictions. Market formation process has exposed poor areas. The improvement of the slums needed the formation of social recognition and social consensus that capital accumulation is a cause of poverty.

研究分野：社会学

キーワード：ヨーク ロウントリー 市場再編 貧困地域 貧困調査 衛生調査 資本蓄積 住宅法

## 1. 研究開始当初の背景

日本および先進国の都市は、19世紀末から20世紀前半にかけて急速な産業化・都市化を経験した。拡大する都市のなかに「都市化地域(開発された地域)」と「遷移地帯(開発されていない地域、または開発されることを待っている地域)」が併存していた。遷移地帯では老朽家屋に貧困層が集積し、スラム(細民地区)が形成された。スラム(細民地区)住民に対し、種々の貧困調査が実施され、社会改良の方法や、有効な社会政策が模索された。

工業が発展し、豊かな社会が実現した20世紀後半には、福祉政策の効果もあって深刻な貧困層集積地域は見られなくなった。しかし、19世紀末から20世紀初頭の「都市化地域」と「遷移地帯」という図式は、20世紀末から21世紀にかけて進んだ再開発では、「再開発地域」と「遷移地帯」として、再現しつつある。

かつて条件が悪く開発が遅れた「遷移地帯」は再開発から取り残され、老朽家屋地域として低所得層の受け皿になることが起きている。このような貧困の重層化状況に対し、貧困の集積、重層化をまねきやすい地域特性を明らかにし、貧困地域で行われた改善の諸活動・諸対策の歴史的意義を再考することが必要とされている。

## 2. 研究の目的

本研究は、都市中心部の遷移地帯に着目し、歴史社会学的視点から特定地域に貧困の重層化が生じるプロセスについて分析・考察することを目的としている。重層化が起きるといふ現実をふまえて、かつて当該地域で実施された貧困調査や諸活動・諸対策にはどのような意義があったといえるのか、長期的視点から再考することをめざす。

## 3. 研究の方法

本研究ではイギリス中東部の都市ヨークに焦点をあてた。近代の産業化・都市化の時代、すなわち19世紀前半にスラム地域がどのように形成されたのか、20世紀前半にこのようなスラム地域がどのように改善されていったのか、都市におけるこのようなスラム改善プロセスは近代から現代へかけての福祉国家形成や、都市機能の再編においてどのような意味をもつ社会的営為であったのか、などの諸点について、都市社会学、歴史社会学的視点から明らかにした。

## 4. 研究成果

### (1)研究成果の概要

19世紀前半のスラム地域形成の要因を明らかにするため、近世まで遡り、都市自治体の性格、都市自治体の運営組織の変容、それをふまえて、近世から現代までのヨークの社会的変容を明らかにした。

近代産業化の時代に、都市において資本蓄積が進んだ反面、人口が集中して、都市基盤整備が追いつかず、社会構造のさまざまな矛盾が集積したスラム地域が形成された。貧困者の集積、貧困地域の形成をもたらした根幹的要因は、近代都市における産業資本の成長、資本主義の発達、資本蓄積の合理的追求によるものである。当該都市独自の資本・資源蓄積様式と、貧困地域形成は深く関連している。

ヨークは中世以来のイングランド中東部の代表的な市場都市、遠隔地交易都市であり、都市自治体は活発な市場交換の拠点としての機能を維持し発達させてきた。本研究は「市場再編」すなわち「資本蓄積方法の転換・再編」と、「貧困地域」すなわち「矛盾の集積地域」という分析枠組で、ヨークの近現代の変化を分析した。

都市自治体が近世的市場を近代的市場に組み替えていく過程で、産業構造や都市空間が改編され、資本蓄積が進む地域が形成された。一方で諸矛盾が蓄積する地域が形成され、スラムとして顕在化した。スラムを解消するには自治体は予算を必要とし、予算確保のため社会的合意を得る必要があった。スラム改善は自治体の政策として進捗した。

本研究では、都市の基本的かつ根幹的機能である「市場交換、資本の合理的蓄積」が「諸矛盾の蓄積」要因であること、近代の「市場再編プロセス」が貧困地域を顕在化させたこと、スラム改善には「近代都市の資本蓄積過程」が「貧困発生の要因」であるという社会的認識・社会的合意を形成する必要があったこと等の知見を得ることができた。

### (2)研究成果の詳細

分析対象にしたヨークは、B.S.ロウントリーの1901年刊行『貧困 - 都市生活の研究』の社会地図でスラム化していた貧困地域として、「ハンゲイト」「ウォルムゲイト」という二つの地区が具体的に示されている。本研究の分析はこの両地区におけるスラム形成と改善プロセスを解明することを中心テーマにした。

中世から現代にいたるまで、ヨークの独自性は「局地圏市場」と「遠隔地市場」の両面を兼ね備えた市場都市という点にある。これはヨーク独特の地理的特徴に由来する。「局地圏市場」と「遠隔地市場」の「二重市場」を兼ね備えた「市場都市」の構造は、時代に即して、変容せざる

を得ない。「局地圏市場」としての性格は比較的安定したものだだったが、「遠隔地市場」は他の商業都市との競争が厳しい。ヨークの都市運営は「局地圏市場」と「遠隔地市場」の「二重市場」の維持・管理をどのように行うか、判断や選択を迫られることになった。

#### 中世・近世都市と自治組織：15世紀～18世紀

1396年から1835年まで、ヨークは自治的社団である「コーポレーション」体制で運営された。市長、上位諮問機関、下位諮問機関、市参事会が司法、財政、行政の各業務を運営した。「コーポレーション」の構成員は条件を満たしたフリーメン（自由市民）である。中世ヨークは政治的には「コーポレーション」、経済的には「カンパニー」が自治的に支配した都市であった。17世紀半ば以降、ピューリタンの商業者が都市部の新興商業者層として台頭し、18世紀になるとクエーカーが新興の商業層として伝統的都市支配層に対抗する勢力、都市改革の重要な担い手に成長していった。

#### 近代都市への移行：19世紀前半

1825年ヨーク「改正委員会設置法」が公布され、新設の改正委員会がコーポレーションと併立し、指定された管轄範囲の行政を担うようになった。1830年代に産業基盤として重要な「市場機能」の近代化が進んだ。市中心部に「パースメントマーケット」、市壁外部に「キャトルマーケット」が開設した。中心部と周辺部に重要な2つの「近代市場」が編成されたことによって、ヨークは近現代においても商業都市として存続することが可能になった。

#### 近代公衆衛生体制の構築

同時期、感染症の大規模な流行が始まり、貧困対策と衛生対策が重要な社会的課題になっていった。1848年に公衆衛生法が制定され、ヨークでは不衛生原因の一つとしてフォス川の環境悪化が注目されるようになった。ハンゲイト、ウォルムゲイトはフォス両岸の低地で、貧困層が集中し人口密度が高かった。地形的条件が悪く、衛生基盤が整っていない条件不良地域に貧困層が流入し、人口が増加して密集化した。頻りに洪水が起きる都市内の小河川沿いがインフラ未整備のままスプロール化して人口密集地域となり、貧困と不衛生が集積する区域になっていた。

#### 衛生対策と河川管理

フォス川の環境悪化の原因の一つ運河であった。総合的な見地から適切な河川管理、利用方法の調整が望ましかったが、近代都市への移行過程にあって、産業は変動し、人口は流入し増加していた。19世紀前期は、都市の行政体制そのものが大きく変化していた時期で、河川利用に関し総合的な見地から調整されていたわけではない。誰のために、どの対策を優先し、川の水位をどの程度に保つのか。川の水位は都市運営の根幹的な問題になった。

#### 河川交通と物流基盤の近代化

18世紀前半、自然河川の改修進み、内陸河川交通が機能するようになると、局地的市場圏を越えて、遠隔地間での取引が活発化し広域市場が形成されるようになった。18世紀後半、運河建設がさかんになり、1793年、フォス川でも運河経営の事業体の設置法案が認可され、フォス川の運河化によって石炭の大量輸送が可能になった。フォス沿岸に石炭を工業燃料とする近代的工場が林立するようになった。19世紀前半、フォス流域は物流・産業基盤の近代化が進み、その両岸は産業用地として利用されるようになった。

大量輸送することが河川輸送の標準になり、貨客の運送をめぐって、河川交通と鉄道交通が対抗する時代になった。ヨークの仮設駅で鉄道が開業したのは1839年である。1841年にイングラッド中北部を貫く鉄道の大幹線が形成された。

#### 近代の産業資本と河川交通

1850年にフォス沿岸のハンゲイトに製粉工場を新設したのはリーザム社である。もともとウース川で河川運送業を自営していたが、1830年代に蒸気船に転換し、貨物品に穀物があったことから小規模の製粉所を買収して河川運送業と併行して経営するようになった。1846年に穀物法が廃止されると、穀物の価格が低下したことから、製粉業経営に本格参入し、フォス沿岸のガス製造工場の跡地を買収したのである。1888年以降、リーザム社はフォス沿岸を産業用地として開発していった。1894年には市から中洲「フォスアイランド」を購入し穀物倉庫を建設した、年間取扱量は11万トンを超え、1890年代半ばに大量生産体制が確立した。ヨークの産業資本家同士は姻戚関係を結んで、資本家階級の存在基盤を固めていった。

#### ロウントリー家と貧困調査

ロウントリー家は社会改良活動においてもヨークのクエーカーの中核的存在であった。B.S.ロウントリーは、1899年からワーキングクラスの全数戸別訪問調査を実施、11,560世帯のデータを集めた。1901年に『貧困 - 都市生活の研究』を刊行、そのなかでスラム地区としてハンゲイト、ウォルムゲイトという具体的な名称を挙げて貧困状況を説明している。

1906年1月、父ジョーゼフ・ロウントリーを含む12人の市民有志がハンゲイト地区の衛生対策実施の要望書を提出した。ヨーク市衛生局は1906～07年にハンゲイトで全戸対象の衛生調査

を実施、1908年に調査報告書が公表され、スラム改善にむけた事業が動きはじめた。B.S.ロウン  
トリーの貧困調査はヨーク市におけるスラム改善の原点になったといえる。

#### 近代ハンゲイトと不動産所有層

フォス川西岸のハンゲイトは1820年代以降、30年間に住宅または産業用地として土地利用が  
進んだ。このような近代都市化区域に、不良住宅が蓄積され、廉価な家賃は貧困層集積を促す要  
因になった。

1890年「労働者階級住宅法」は衛地方自治体に不衛生住宅を処置する権限を賦与した。しか  
し、不動産所有層に適切に改善させるのは至難で、リーザム社の場合は改善に資金を投せず、高  
圧的にスラムクリアランスを実行して、しわ寄せは貧困層がかぶった。

#### ハンゲイトの衛生局調査と貧困層

1906年1月1日、ジョーゼフ・ロウントリーを含む12人の市民有志が「1890年労働者階級住  
宅法」ののってハンゲイト地区の衛生対策を実行する要望書を提出した。これをうけてヨー  
ク市は調査体制をつくり、1906-07年にハンゲイトの全戸対象の不良住宅調査に取り組み、1908  
年に報告書提出、改善計画の策定へと進捗した。ヨークにおいて公的機関によるスラム改善事業  
の出発点になった。

調査後、住宅小委員会を設置して改善に取り組み、リーザム社工場がハンゲイト住民の生活環  
境を阻害していることは放置できないとして、市当局として特別の代表団を組んで、リーザム社  
に対し正式に改善を申し入れた。大規模化したリーザム社は、ほぼ同時期に労働者側からも意義  
申し立てを受けたのである。1906-08年衛生局調査が行われたことによって、リーザム社の周辺  
区域に問題が集積していることが明らかになった。

しかし、ハンゲイトの抜本的改善はなかなか進まず、1933年に大規模な洪水被害にあったあ  
と、移転計画が進み、1936年秋から公営住宅へ移転開始、ハンゲイトの住宅は完全撤去になっ  
た。

#### キャトルマーケット：近代都市化と市場の変容

近世から近代への移行期に、市場機能の再編によって、キャトルマーケット(家畜市場)は城壁  
外へ移転した。ヨーク駅からキャトルマーケットまで鉄道支線のフォスアイランド支線が敷設  
され、1879年に開業し鉄道輸送で家畜を搬入するようになった。支線沿線は19世紀末までにリ  
ーザム社製粉工場、ガス工場、ロウントリー社工場がならぶ新たな産業拠点になった。

市周辺部にキャトルマーケットが開設されたのはヨークの「都市化(第一段階)」にあたる。  
19世紀前半のこの時期に都市空間の再編が進み、改造された先進区域と、老朽化したままの後  
進区域に分化した。都市空間の格差が拡大し、後進区域に社会問題が集積した。

19世紀後半の「都市化(第二段階)」では、後進区域に生じるさまざまな社会問題への対処が  
必要になった。キャトルマーケットに隣接した市壁内側のウォルムゲイト地区は旧態依然で様々  
な社会問題が集積する区域になった。

#### 近代ウォルムゲイトと貧困層

19世紀前半の人口急増期、フォス川の運河化を契機にウォルムゲイトは都市工業密集地域と  
なった。石炭を燃料にする工場は煤煙、悪臭を排出した。生活環境は悪化し、ミドルクラスは転  
出した。ウォルムゲイトに住宅を必要としているのは、この一帯に増加した零細工場・作業場で  
働く労働者層である。その需要に応じて、ウォルムゲイトに狭小の共同裏庭、細街路を特徴とす  
る狭小住宅が密集した裏街区が形成された。ウォルムゲイトは19世紀前半にワーキングクラス  
集住地域としての性格を強めていった

ウォルムゲイト全体が「不良住宅」化していた時期、1840年代後半の「大飢饉」でウォルムゲ  
イトにアイルランド移民が増えた。とくに「ホープストリート」一帯への流入が顕著であった。

#### 貧困調査から地域改善への道程

1909年12月、納税者12名からウォルムゲイトの改善要望が提出された。申し立て受理後、  
調査結果が公表されたのは5年後である。第一次大戦に参戦して4ヶ月経過した1914年12月、  
衛生局はウォルムゲイトの衛生調査の結果を公表し、「ホープストリート不衛生地区」を「完全  
撤去」する方針を公表した。1914年末、ヨーク市行政関係者の間ではスラムクリアランスと「タ  
ンホール」を住宅建設用地とすることが共有された。

#### 第一次大戦と住宅問題

第一次大戦後に深刻な住宅不足が起きることが懸念されていた。ロイド・ジョージは「英雄た  
ちのための住宅」を公約した。社会不安が続くなか、1919年7月31日に「1919年住宅・都市計  
画法(アディソン法)」が施行され、地方自治体が公的住宅供給の責任を負うことが規定された。

ヨークではアディソン法公布以前から、公的住宅建設へ向けた準備が本格化し、住戸の設計や  
協議が始まっていた。建築資材の調達に関しても、担当部署の権限強化などの対策がとられてい  
た。公的住宅建設への早い出発は、戦前におけるスラム改善計画の立案、戦時中の地方行政と  
の交渉などの実績があったことによる。

### ウォルムゲイトの貧困地区改善

1923年6月1日、ヨークの衛生医務官は「1890年労働者階級住宅法」に基づき「ホープストリート不衛生地区」の改善計画を実行することを提議した。1923～24年に撤去対象と判定されていた世帯を対象に全戸訪問調査が実施された。対象者の世帯の職業構成は安定的職業の就業者が27%、製造・技能労働の就業者が43%、不安定・無職層が30%であった。貧困層の間でも格差があり、不安定・無職層が3割程度いたことは、家賃水準に対する公的対策が必要であることを示唆するものであった。

ジョーゼフ・ロウントリーなどの市へ度重なる粘り強い要請から20年後ようやく「ホープストリート不衛生地区」は解消され、人間の居住に適する環境に造りかえることが実現した。

### 都市と20世紀の空間再編

ヨークでは1920年代から30年代にかけてタンホールを中心に公的住宅が建設され、建設労働市場に多くの需要を生み出した。1930年代には公営住宅建設地が拡大し、大規模な住宅供給を連続して行うことが可能になった。大量供給に対応した建設労働者の養成、資材の調達など、1930年代には大規模な住宅建設に対応した産業構造が形成された。建設需要の長期的安定政策が、住宅産業が福祉国家の産業基盤になっていくことに一定の効果をもたらした戦間期に住宅需要はイギリス社会の産業を支える重要な骨組みの一つになっていった。

### 現代のヨーク：21世紀のイギリス都市

B.S.ロウントリーが貧困調査を実施した時期、ヨーク中心部はそれぞれの用途の機能に特化していて、改編の余地はなかった。都市の諸機能は外縁部に広がるように拡大していった。スラム改善計画は、外延部の郊外に公営住宅建設が広がることによって、移転住宅の提供が可能になり、スラム解消が実現していった。

1830年代、近世から近代への都市に移行していった時期、市中心部にあった市場は物理的空間として、市場機能として再編されていった。キャトルマーケットは外延化の原点であった。市中心部に集積した問題を、空間的な外延化によって解消していくパターンがそこにあらわれていた。スラム解消についても同様のパターンを見出すことができる。1930年代に公的住宅の建設を通して、市中心部に集積された問題点の外延化、解消が進められたのであった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 武田尚子,	4. 巻 14
2. 論文標題 近代東京の貧民窟 四谷鮫河橋 と残飯業	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 理論と動態	6. 最初と最後の頁 116-131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 武田尚子	4. 巻 5
2. 論文標題 桜田勝徳と漁村をめぐる旅：網子の発見	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 新社会学研究	6. 最初と最後の頁 35-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 武田尚子	4. 巻 vol.14
2. 論文標題 関係人口と地域資源研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『地域活性研究』	6. 最初と最後の頁 225-232
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計22件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 8件）

1. 発表者名 Naoko Takeda
2. 発表標題 Urban Climates and Flood Defense: Local Community and Risk Management in Japanese Cities
3. 学会等名 International Conference on Urban Studies on Zoom, organised by London Center for Interdisciplinary Research (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 武田尚子
2. 発表標題 近代都市の産業化と河川管理
3. 学会等名 第46回地域社会学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 武田尚子
2. 発表標題 近代イギリス都市における住宅政策の展開
3. 学会等名 第39回都市社会学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 武田尚子
2. 発表標題 フィールド調査の系譜
3. 学会等名 第93回日本社会学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 武田尚子
2. 発表標題 戦前期の条件不良地域開発と外来資本
3. 学会等名 第45回地域社会学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 武田尚子
2. 発表標題 オンライン地域資源研究による質的調査の可能性
3. 学会等名 第12回地域活性学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 武田尚子
2. 発表標題 近代 遷移地帯 から現代 再開発地区 への移行
3. 学会等名 第92回日本社会学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Naoko Takeda
2. 発表標題 Historical Analysis of Spatial Segregation:Re-Study of Rowntree's Map from Environmental Risk Perspective
3. 学会等名 The British Sociological Association 2019 Annual Conference at Glasgow Caledonian University (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Naoko Takeda
2. 発表標題 Historical Analysis on The Formation of Poverty Area in Tokyo
3. 学会等名 International Conference on Urban Studies, organised by London Centre for Interdisciplinary Research, at Birkbeck College, University of London in London (国際学会)
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 Naoko Takeda
2. 発表標題 Sustainable strategy in Historic City: the Case of York in UK
3. 学会等名 Applied Research International Conference on Social Science&Humanities (ARICSSH), at University of Cambridge, U.K, organised by Applied Research International Conferences (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Naoko Takeda
2. 発表標題 Regeneration and Spatial Segregation in Post-Modern York, UK
3. 学会等名 European Sociological Association 2019 Conference , at University of Manchester (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Naoko Takeda
2. 発表標題 Munition Girls and Football: Female Work and Welfare during World War I in UK
3. 学会等名 International Conference on Gender Studies, at St Anne's College, University of Oxford, organised by London Centre for Interdisciplinary Research (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 武田尚子
2. 発表標題 近代都市貧困地域における公衆衛生と産業政策のコンフリクト - ヨーク市衛生局調査とロウントリー貧困調査
3. 学会等名 第91回日本社会学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Naoko Takeda
2. 発表標題 War and Welfare in the UK during World War I
3. 学会等名 International Conference on War Studies, at Birkbeck College, University of London in London (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 武田尚子
2. 発表標題 近代都市の工業化と産業基盤
3. 学会等名 第43回地域社会学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 武田尚子
2. 発表標題 近代東京における軍用地形成の歴史的要因
3. 学会等名 第36回日本都市社会学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 武田尚子
2. 発表標題 東京圏における格差拡大の進行過程とその社会的帰結に関する研究 (3) 貧困地域の形成過程
3. 学会等名 第90回日本社会学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Naoko Takeda
2. 発表標題 Craft Making of 'Bean to Bar' Chocolate and Market in Japan
3. 学会等名 ARTISAN:Crafting Alternative Economies, Making Alternative Lives, A Multi-Disciplinary Conference. (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 武田尚子
2. 発表標題 近代箱根の開発：開発資本と近代技術の導入
3. 学会等名 第47回地域社会学会大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 武田尚子
2. 発表標題 長野県小谷村における観光地域づくりと担い手層
3. 学会等名 第14回地域活性研究大会（関東学院大学）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 武田尚子
2. 発表標題 六大都市の連携と社会事業の展開
3. 学会等名 第40回都市社会学会大会（実践女子大学）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 武田尚子
2. 発表標題 近代名古屋における土地区画整理事業と商工業地域の形成
3. 学会等名 第95回日本社会学会大会（追手門大学）
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 橋本健二・浅川達人編（分担執筆 武田尚子）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 鹿島出版会	5. 総ページ数 301
3. 書名 格差社会と都市空間 - 東京圏の社会地図1990-2010	

1. 著者名 武田尚子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 200
3. 書名 第一次大戦期イギリスの軍需工場と福祉	

1. 著者名 武田尚子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 196
3. 書名 近代東京の地政学	

1. 著者名 武田尚子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 215
3. 書名 世界遺産都市ドゥブロヴニクを読み解く - 戦火と守護聖人	

1. 著者名 武田尚子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 344
3. 書名 箱根の開発と渋沢栄一	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------